

第4回 将来の首都東京にふさわしい水道施設の再構築を考える会 議事要旨

○ 委員からの主な意見

将来の首都東京にふさわしい水道施設の再構築のあり方（報告書案）について

- ・ 第1章の「首都東京にて想定される主な断水被害と影響」については、被害の重要度を踏まえつつ断水が発生した場合に、どのような影響があるのかを表現した方がより伝わりやすい。
- ・ 第2章では、全体的に写真や図表を多く使用しているが、これらについて、重要なものについては、説明を本文や図に加え、わかりやすくしていきたい。
- ・ 第2章の「需要予測期間と水道施設の整備供用期間に大きな違いがある」との表現は、違いがあるだけでは時間軸がわからないので、整備供用期間が予測の期間をはるかに越えていることがわかる表現としていきたい。
- ・ 第3章の「現行の需要予測は、過去のある一定期間の実績をもとに10年程度先の計画一日最大配水量を算出しているものであり、予測時点における気象条件や社会経済状況などの様々な要因により増加傾向を示すことも減少傾向を示すこともある」という部分は、問題点が明確にわかるよう表現を工夫していきたい。
- ・ 第4章の「日本全体に波及する」との表現は、第6章の「世界を牽引する」との表現と統一する上で、日本全体はもとより国際的にも波及するなどの意味合いとしていきたい。
- ・ 第5章提言1については、「水源の確保は、将来にわたる安全確保のために短期の需要予測のみに左右されるべきではない」という点を強調していくべきである。
- ・ 第5章提言1の「あらゆる水源確保の取組を進める」との表現や、第5章提言3の「十分な供給能力に備える」との表現は、どの程度の意味合いを示すのかわかりにくいため、表現を再整理していきたい。
- ・ 第5章～第6章において、今回の委員会は、水道施設の再構築を考える会であるため、ハード面中心の報告書となることはやむを得ないが、日本の水道界の大きな課題としては、広域化、公民連携、アウトソーシングといったものがあるため、財政基盤の確立と同時に、効率的経営に努めるような観点も必要ではないか。
- ・ 今回の提言は、東日本大震災の経験を踏まえることが重要である。また、想定外の事象に対して過度な投資はすべきではないが、一定の投資をすれば、想定外なことが起こっても何とか耐えられ、大惨事を防ぐことができるといった視点が重要である。
- ・ 報告書は、ハード面の内容では補いきれないことを、ソフト面の内容で最低限補足するといった意味合いに読み取れるような表現としていきたい。

- ・ 経済性や効率性の追求も大事だが、水道は生活や社会経済活動を支えるライフラインであるという性格上、断水による影響は計り知れない。報告書は、東京都水道局に対して、100年をかけてどのような水道施設の再構築が良いのかということ、安全性、安定性という原点から立ち帰って考えていただきたいという内容としていきたい。

その他

- ・ 1300万人の都民、昼間人口で約1500万人という方々が東京都で活動する中で、水道局は、これらを支える社会的責任を果たすということ、国内のみならず世界に向けて発信することを基本構想策定の際には、検討してみてもどうか。
- ・ 東京水道の再構築にかかる費用は、アセットマネジメントを導入したとしても、新たな財源を確保しなければならない可能性があるため、今回の提言を踏まえ、再構築にかかる費用の裏付けとなる財政基盤の確立に向けた検討が必要ではないか。